

## 失敗から学んだキジ類の人工孵卵

大谷美穂子

(横浜市立野毛山動物園)

野毛山動物園では主にキジ類の人工孵卵に取り組んできたが、これまで飼育担当者によって孵卵に関するデータの取り扱いが異なり、それが必ずしも当園に反映されていないことに懸念を抱いていた。そこで、前任者から継続して行っている人工孵卵時の孵卵器内温湿度の計測に加え、卵重減少率をデータとして残すようにした。今回報告するのは、キジ類のトウテンコウ (*Gallus gallus domesticus*) 16例とインドクジャク (*Pavo cristatus*) 2例についての人工孵卵時の卵重減少率を割り出した。正常に孵化した例を『成功例』、中止卵や死ごもりにより途中で孵卵器から除去したもの、自力での孵化に時間を要し介添えで孵化させた雛や何らかのトラブルを抱えて孵化した雛についてを『失敗例』と分け、それぞれの卵重減少率を調べた。『成功例』はいずれも孵化までの卵重減少率は平均 15%程度を推移して減少していたが、『失敗例』の方は卵重減少率が安定せず、『成功例』よりも極端な増減等が確認された。